

第 12 回

東海三県中学校修学旅行 研究セミナー要項

2014. 10. 22

名古屋ダイヤビル2号館

222会議 (2階)

主催 東海三県中学校修学旅行委員会
公益財団法人 全国修学旅行研究協会

後援 愛知県教育委員会 岐阜県教育委員会
三重県教育委員会 名古屋市教育委員会

研 究 セ ミ ナ ー 次 第

13 : 30 開 会

主催者 あいさつ

東海三県中学校修学旅行委員会

会 長 金 原 宏

公益財団法人 全国修学旅行研究協会

理 事 長 岩 瀬 正 司

13 : 40 研究発表

○ 研究主題

「 自ら考え，判断し，行動できる修学旅行 」

○ 発表者

名古屋市立滝ノ水中学校

教諭 山 田 幸 雄 氏

谷 川 智 之 氏

14 : 25 研究協議

14 : 55 閉会のことば

東海三県中学校修学旅行委員会

副会長(三重県) 下 村 純 也

15 : 00 閉 会

実践研究報告

「自ら考え、判断し、行動できる修学旅行」

名古屋市立滝ノ水中学校

教諭 山田幸雄

教諭 谷川智之

I	はじめに	2
1	学校の概要	
2	学校の現況	
3	教育目標	
4	本年度の学校努力目標	
II	平成 26 年度の実践	3
1	三年間を見通した修学旅行の位置付け	3
	(1) 本校の「総合的な学習の時間」の流れ	
	(2) 修学旅行につながる実践	
2	修学旅行のねらい	5
3	日程・宿泊地について	6
4	ねらいを実現させるための総務会・実行委員会等の取り組み	6
	(1) 総務会の取り組み	7
	① スローガン作り	
	② ルールの徹底	
	③ 実際のルール	
	ア 服装について	
	イ 持ち物について	
	④ 修学旅行説明会での取り組み	
	⑤ 信頼される総務会を目指した日常の取り組み	
	(2) 実行委員会の取り組み	11
	(3) 班別活動での取り組み	13
	① 班編制について	
	② 都内分散学習の計画作り	
5	当日の取り組み	17
	(1) 出発式(前日)	
	(2) ディズニーランド(一日目)	
	(3) 都内分散学習(二日目)	
	(4) 伊豆高原の体験活動(三日目)	
6	事後の取り組み	20
III	おわりに	20

「自ら考え，判断し，行動できる修学旅行」

名古屋市立滝ノ水中学校 教諭 山田幸雄

教諭 谷川智之

I はじめに

1 学校の概要

本校は開校 30 年目になる比較的新しい学校であり，市内でも有数の大規模校である。全校生徒は千名近く在籍しており，教職員も 50 名以上になる。経験豊かな教員から，経験の浅い 20 代の教員が勤務している。学区の大部分は新興住宅であり，地域に住む多くの人は，他の地域から移住してきた人が多い。そして，家庭での教育力は高く，保護者・生徒とも学習に対する意識が高い家庭が多い。評価・評定のみならず，日ごろの授業に関しても要求が高い。

また，本校の生徒の多くは，学習面では積極的に自分の意見を述べたり，課題の解決に取り組んだりすることができる。また，生活面では挨拶がきちんとできたり，時間を守って生活できたり，学校行事などに積極的に取り組んだりすることができる。しかし，これらの姿は教師や保護者等の支援や指導の中では多く見ることができるが，自ら判断し，考えて行動することに関しては欠ける面がある。このような点から平成 24 年度より，基礎的・基本的な学力を定着することと，自主・自立心を育てることに重点を置くことを学校努力目標としてきた。

2 学校の現況

現在の学級数は 29 学級（特別支援学級 2 を含む）である。生徒数は男子 485 名，女子 476 名の計 961 名で，うち三年生は男子 185 名，女子 163 名（特別支援学級 1 名を含む）の計 348 名である。

3 教育目標

○ 生徒に示す努力目標

【名古屋市学校教育努力目標】

広がる笑顔 輝く瞳

【本校の校訓】

信頼

【努力目標】

- 互いに学習に真剣に取り組み，基礎基本を身に付けよう。
- 自ら考え・自らの力で何事にも取り組もう。

4 本年度の学校努力目標

自らつかもう 輝く未来
～基礎的・基本的な学力の定着と自主・自立心の育成を通して～

○ 努力点の柱

- ・ 学び合いの中から、必要な基礎的・基本的な学力を身に付けた生徒を育てる。
- ・ 自ら考え・学ぶことができる自主・自立心のある生徒を育てる。

II 平成 26 年度の実践

1 三年間を見通した修学旅行の位置付け

(1) 本校の「総合的な学習の時間」の流れ

自分の生き方をみつめ、将来の生き方を自分の力で見つけることができる生徒を育成するために、三年間を系統的に見通した学年のテーマを設定し、その具体的な活動内容を計画していく。

学年	学年テーマ	具体的な活動内容
1 年	「社会への第一歩」 ～夢を現実に～	<ul style="list-style-type: none">○ 校外学習への取り組み○ 「進路クラブ」を利用した進路学習○ 基礎学力コンクール○ 合唱コンクールの取り組み○ 職場見学（市内分散活動）
2 年	「集団の中での個」 ～人とのかかわりの中での活躍～	<ul style="list-style-type: none">○ 稲武への取り組み（宿泊学習）○ 校外学習への取り組み（市内分散活動）○ 合唱コンクールへの取り組み○ 基礎学力コンクール○ 「進路クラブ」を利用した進路学習○ 上級学校についての学習（学校訪問）○ 和 문화への理解
3 年	「共に生きる」 ～人・社会とのかかわりの中で～	<ul style="list-style-type: none">○ 修学旅行への取り組み○ 上級学校についての学習（説明会）○ 基礎学力コンクール○ 合唱コンクールへの取り組み○ 進路学習

(2) 修学旅行につながる実践

総合的な学習の時間の中で、生徒自身が体験的活動を通して自主・自立心を育めるよう 1 年生の「校外学習」「職場見学」、2 年生の「稲武野外学習」「市内分散活動」「上級学校訪問」、3 年生の「修学旅行」と、三年間の校外学習を見通して、段階的に「自ら考え、判断し、行動できる」場面を設定して実践を行ってきた。

それぞれの実践のねらいと評価方法

1年	6月	<p>校外学習（リトルワールド）での班別行動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国の伝統文化に興味を持ち、仲間と協力して、調べ学習に取り組むことができる。（関心・意欲） ・自分で資料を収集し、まとめることができる。（情報活用能力） ・団体行動を通して、集団生活の秩序やマナー・公衆道徳の態度を身に付け、今後の生活に生かすことができる。（自己の生き方） ・校外学習への取り組みを通して、仲間と関わることにより、他を思いやる気持ちをもつことができる。（自己の生き方） <p>[評価方法：取り組みの様子，振り返りシート，作文，まとめ発表]</p>
	1月	<p>職場見学での班別研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職場見学や、働く人々とのふれあいを通して、働くことの意義や自己の生き方を考えることができる。（自己の生き方） ・団体行動を通して、集団生活の秩序やマナー・公衆道徳の態度を身に付け、今後の生活に生かすことができる。（自己の生き方） ・自分で資料を収集し、まとめることができる。（情報活用能力） ・校外学習への取り組みを通して、仲間と関わることにより、他を思いやる気持ちをもつことができる。（自己の生き方） <p>[評価方法：取り組みの様子，振り返りシート，作文，まとめ発表]</p>
2年	4月	<p>稲武野外学習での宿泊研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・稲武野外学習への取り組みを通して、積極的に行事に参加する姿勢を身に付ける。（関心・意欲） ・一つのことに取り組む中で、仲間との関わり方を学び、周りを思いやる気持ちを持つことができるようになる。（自己の生き方） ・仲間と協力しながら、自分の持ち味を集団の中で生かすことができる。（課題発見） <p>[評価方法：当日の取り組み，事後の振り返り用紙]</p>
	6月	<p>名古屋市内分散活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・団体行動を通して、集団生活の秩序やマナー・公衆道徳の態度を身に付け、今後の生活に生かすことができる。（自己の生き方） ・さまざまな活動場所を通して学級・学年の親睦を深め、互いを認め合い協力する気持ちを育てることができる。 <p>[評価方法：活動の様子，振り返り用紙]</p>

2年	12月	上級学校訪問
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学・専門学校といった上級学校についての見識を深め、自分の進路について真剣に考えることができる。(関心・意欲) ・ 社会人として守るべき、公共の場でのマナーやルールを身に付けることができるようにする。(自己の生き方) <p>[評価方法：事後のまとめ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問する上級学校や交通機関について、事前に資料を用いて調べたり、事後にまとめたりすることができる。(情報活用能力) <p>[評価方法：事前学習の取り組み・事後のまとめ]</p>
3年	6月	修学旅行での班別分散学習
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な活動を通して、互いの良さに気づき、認め合い、協力する気持ちを育てることができる。(自己の生き方) ・ 伊豆高原で、日常の学校生活では体験できない活動を通して、生きた学習に取り組むことができる。 ・ さまざまな活動を通して、学級や学年の親睦を深め、互いに認め合い、協力する気持ちを育てることができる。 <p>[評価方法：事後のアンケート]</p>

こうしたねらいに基づいて、2年生までに、自分で資料を収集し、まとめることができる情報活用能力や、団体行動を通して集団生活の秩序やマナー・公衆道徳の態度を身に付けさせてきた。

修学旅行については、これまでに身に付けてきた力を生かし、自分たちで話し合い、東京での分散学習の計画を立てて活動する。

2 修学旅行のねらい

- ・ 分散活動を通して、自分で考え、判断し、行動できるようにする。
- ・ 三日間の旅程を通して、時・場所・場面に応じて、けじめのある行動ができるようにする。
- ・ 日ごろ体験できないことを経験することで、知識・見聞を深めさせる。
- ・ 互いに認め合い、協力することで、連帯感を味わわせ、学年共通の思い出をつくらせる。

3 日程・宿泊地について

平成26年6月16日(月)～18日(水)

※6月13日(金)事前指導(11:00頃下校) 6月19日(木)家庭学習日

1日目 6/16(月) ホテルオークラ東京ベイ

千葉県浦安市舞浜 1-8 TEL047-355-3333

2日目 6/17(火) 伊豆高原ペンション協同組合(窓口オハベルジュラ・クラブ)

静岡県伊東市富戸 1104-60 TEL0557-51-7775

凡例：=====バス ……………徒歩 —————新幹線 ~~~~電車

6/16 (月)	<p>9:12 10:53 11:38 11:54 12:30頃</p> <p>名古屋駅—————東京駅~~~~~舞浜駅・・・東京ディズニーランド</p> <p>20:30 (昼食・夕食)</p> <p>……………(リゾートライナー) ホテルオークラ東京ベイ</p>
6/17 (火)	<p>8:30</p> <p>ホテルオークラ東京ベイ=====バスで4エリアへ分散→東京班別分散(昼食も)</p> <p>14:30 17:30頃 18:00</p> <p>……………都民広場=====ぐらんぱる公園(入村式)=====ペンション</p>
6/18 (水)	<p>7:45 9:00</p> <p>ペンション=====ぐらんぱる公園=====体験活動</p> <p>12:30 14:45 16:00 16:43 18:08</p> <p>=====ぐらんぱる公園(昼食・退村式)=====熱海駅—————名古屋駅</p>

4 ねらいを実現させるための総務会・実行委員会等の取り組み

約350名9学級の三年生が様々な取り組みをする際、大規模であるがゆえに「自分たちで考え、判断する」場面を多く設定することはなかなか困難であった。そういった中でも、学級のリーダーである「総務会」、公募制によって集まった「実行委員会」によって「修学旅行のねらい」の実現に向けて取り組んだ。

リーダーによる自治活動	総務会	<ul style="list-style-type: none"> ・スローガンの募集，決定 ・事前のルール徹底 ・三日間の学年運営・司会 					
希望者による主体的な活動	実行委員会	グループA（12人）	グループB（16人）	グループC（6人）			
		前半	後半	前半	後半	前半	後半
		体験学習の紹介	ホテルのルール・マナー紹介	分散エリア紹介	TDLの紹介	しおり表紙絵選び・投票	カット絵作成
認め合い協力する活動	班別学習	<ul style="list-style-type: none"> ・都内分散学習の計画作り ・見学地での学習 ・まとめ作り，発表 					

（1）総務会の取り組み

各クラスの代表者である総務委員は、学級をまとめるリーダーであり、生徒議会や総務会の話し合いに参加する議員でもある。修学旅行に関しては、学級の話し合い活動の司会・議事進行を行ったり、学年にルールを徹底する活動をしたり、総務会でのスローガンの募集・決定、旅行中の学年運営を行ったりする。そして、スローガンに基づいて、自分たちで考え、判断し、行動できるようにする自主自立と自治ができるようにしていく。

① スローガン作り

修学旅行のねらいに基づいて活動していくために、自分たちで協力し合い、活動できるようにスローガンを決めることにした。各クラスでどんな修学旅行にしたいかを具体的に意見を出し合い、一人一つスローガンを考え、クラスで一つの候補に絞った。そして各クラスから出された候補を総務会で集約して、再びクラスで投票を行って一つのスローガンを決定した。決定したスローガンとそこに込められた意味は以下の通りである。

喜笑天結

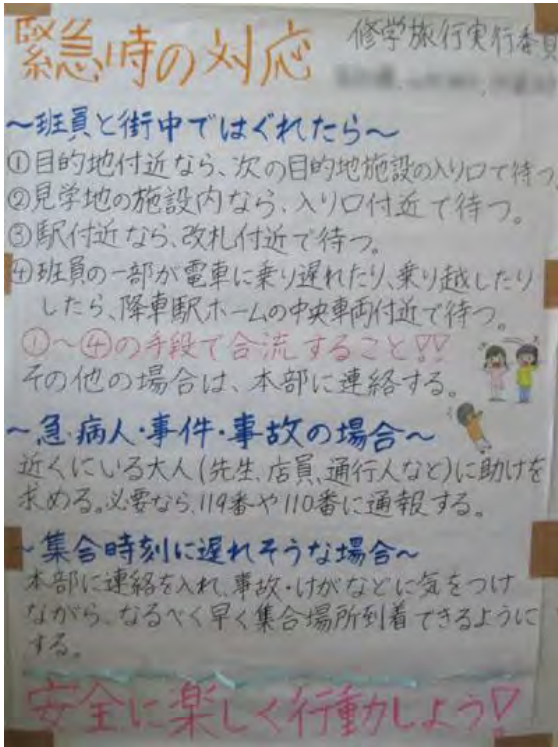
～輝く笑顔で一步前進～

みんなで修学旅行に行くことの喜び、笑顔で過ごす、天に向かうように進化する、協力し合い団結する、という意味を四字熟語で表しました。

② ルールの徹底

「時・場所・場面に応じて、けじめのある行動ができるようにする」という修学旅行の

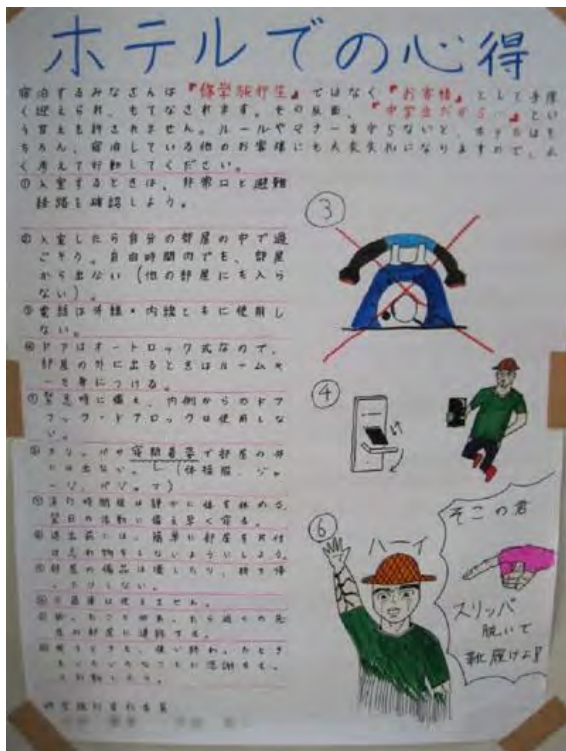
ねらいに基づいて、総務会が中心となって、各クラスや学年集会において周知、徹底を目指した。以下の掲示物は、修学旅行実行委員会の協力で作成したポスターである。各クラスでの説明に使った後、廊下に掲示しておくことによって、みんなに見やすく、いつでも目にとまるように配慮した。



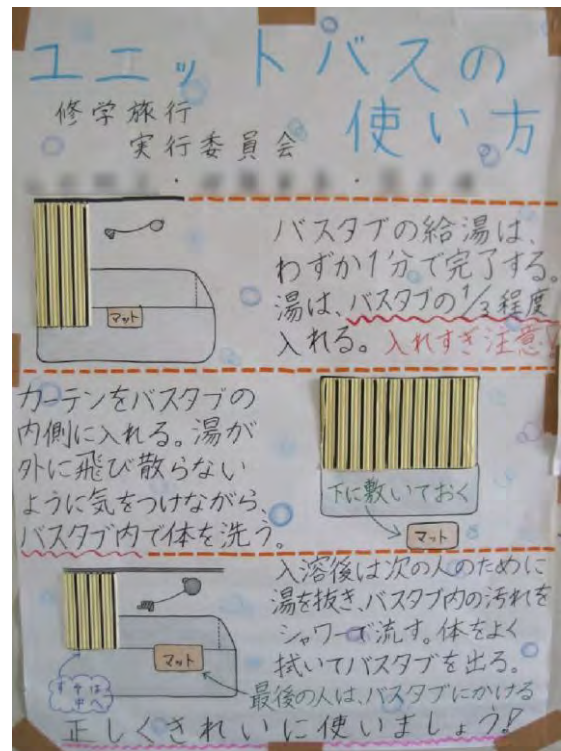
【服装に関する掲示物】



【緊急時の対応に関する掲示物】



【ホテルでのマナーに関する掲示物 1】



【ホテルでのマナーに関する掲示物 2】

③ 実際のルール

ア 服装について

<ul style="list-style-type: none"> ○ 修学旅行の目的や日程にふさわしく、活動しやすいものとする。 ○ 予測される様々なトラブルから身を守るため、華美なもの・派手なもの・露出の高いものを禁ずる。 ○ できるだけ新調しない。(やむを得ず新調する場合でも必要最小限にとどめる) <ul style="list-style-type: none"> ・ 服装・・・全日程を私服で行動する。 ・ くつ・・・履き慣れた運動靴 (スニーカー)。 ・ 頭髪・・・学校生活と同じ。 ・ その他・・・アクセサリー類を身に付けること、化粧をすることは禁止。帽子の着用は可。

イ 持ち物について

持ち物	気をつける点
カバン	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての荷物をひとつにでき、口が閉じられるもの。 ・ ビニール，紙製のものは不可。
サブバッグ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動中使用するのに、携帯性が良いもの (肩に掛けたり，背中に背負えたりできるものなど。) ・ しおり，筆記用具，雨具などが入る大きさのもの。 ・ 口が閉じられるもの。 ・ ビニール，紙製のものは不可。
洗面用具	<ul style="list-style-type: none"> ・ タオル，ハンカチ，ティッシュペーパーなど (シャンプー類については，ホテル・ペンションに設置されている)
雨具	<ul style="list-style-type: none"> ・ 折りたたみ傘 ・ かっぱ ※必要な者のみ
お金	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小遣い (12,000円以内。1,2日目の夕食代を含む) ・ 分散学習費 (班ごとの行動計画による金額) ・ 本部への緊急連絡用に小銭 (テレホンカード)
生徒手帳	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身分証明，見学料金割引に必要な場合があるので，必ず持参する。
筆記用具	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分散学習時の記録をしっかりとってくる。
衣服	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2,3日目の着替えの私服

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 寝間着（パジャマ、ジャージなど） ・ 下着と靴下の着替え(2日分+予備)
しおり	<ul style="list-style-type: none"> ・ ガイドブック等も必要ならば持参する。
おやつ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3日間分で1,000円までとする。 ※ ただし、次のものはやめておく。 ビン、カン、液体、ガム、手作り、腐る心配のあるもの
1日目の弁当	<ul style="list-style-type: none"> ・ 腐りにくいもの。容器は捨てられるもの。
1日目のお茶	<ul style="list-style-type: none"> ・ ビン、カン、紙パック類は不可。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 娯楽遊具（みんなで遊べるカードゲーム、トランプなど） ・ カメラ ※ 持参は自由だが、各自でしっかり管理をすること。 「班別学習のまとめ」用の資料として写真が必要な場合は、持参することが望ましい。デジカメ・使いきりどちらでもOK。 ・ 時計 ※ 最低でも班でひとつは用意し、できるだけ全員用意する。 ・ ビニール袋（洗濯物・濡れたもの・ゴミなどを入れる） ・ ソーイングセットや救急セット ※ 必要な人のみ ・ 薬 ※ 酔い止め、持病の薬など必要な者のみ持参する。
<p>持参禁止</p> <p>ラジオ・ヘッドフォンステレオ・ドライヤー・整髪料・アクセサリ類・化粧品類・携帯テレビ・携帯ゲーム・携帯電話など その他「持ち物」の欄に書かれていない物</p>	

④ 修学旅行説明会での取り組み

修学旅行の1か月前には、保護者・生徒を対象にした修学旅行説明会を行った。修学旅行の概略については教師が説明をするが、服装については総務会が中心となって説明をした。本校の修学旅行では私服を認めているが、時と場所に応じた服装を自分たちで考え、判断させるため「ファッションショー形式・クイズ形式」で、総務会で事前に打ち合わせた服装の基準を示していった。

例えば、「修学旅行の目的や日程にふさわしく、活動しやすいものとする。」という規定について、「船釣りの体験活動ではどのような服装が適切か。」という問いに対して、「日焼け防止のため長袖のシャツが望ましい。」など、総務委員が話し合っただけの答えを披露していた。また、「予測される様々なトラブルから身を守るため、華美なもの・派手なもの・露出の高いものを禁ずる。」という規定に対して、総務委員がサングラスを掛けて登場し、「こんなトラブルに遭うかもしれない。」という寸劇を披露した。



【総務会の寸劇の様子 1】



【総務会の寸劇の様子 2】

⑤ 信頼される総務会を目指した日常の取り組み

総務会では、自主自立と自治を目指して、まず自分たちから修学旅行に向けての学校生活を改善していくことを考えた。修学旅行当日の運営だけ頑張れば、みんなが付いてきてくれるわけではないので、普段の学校生活から総務委員が模範となる行動を心掛け、修学旅行に関することに限らず、リーダーシップを発揮できるように頑張った。以下は、総務会が作成した総務委員が守るべき「掟」である。

総務委員の掟

- 1 常に先を読み、自分がすべき事を考える。
- 2 クラスの和(輪)を大切にし、そのために一人ひとりに気を配る。
- 3 学年のみんなにとって良い思い出となるよう、盛り上げ役に徹する！ そのためには、総務自身も楽しまなければダメ！
- 4 正と不正を見極め、不正には厳しく対処する。 そのためには、総務自身も正を心掛ける。
- 5 前期総務委員のチームワークを生かし、お互い助け合う。

(2) 実行委員会の取り組み

大規模校である本校では、全員の生徒を実行委員会に所属させることは不可能である。また、部活動も盛んで全国大会に出場する部が複数あり、授業後の活動に参加しにくい生徒もいる。そこで、授業後にも活動できる生徒を公募し、活動内容も広報活動に焦点を絞って、分業体制で調べたり、制作したりすることにした。

活動としては、主に、しおりの制作と広報活動である。①TDLの紹介、②分散エリア紹介、③体験学習の紹介、④ホテルでのルール・マナー紹介、⑤しおり表紙絵選び・投票、⑥カット絵作成、である。いずれも、ガイドブックや自宅のインターネットで調

べてきたことを基に、実行委員の話し合いで、情報の取捨選択をし、レイアウトを考えた上で掲示物を作成していった。



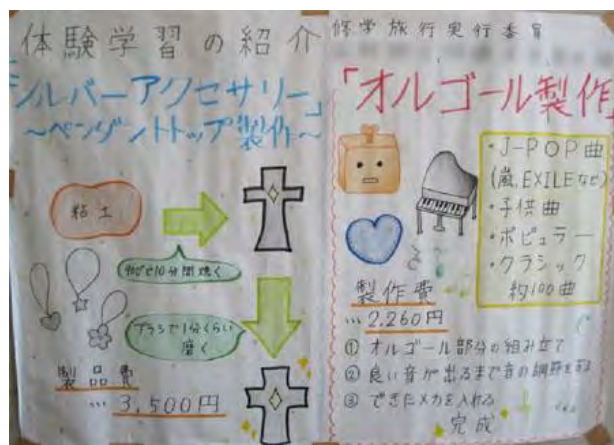
【修学旅行の日程を説明した掲示物】



【ディズニーランドを説明した掲示物】



【都内分散学習を説明した掲示物】



【体験学習を説明した掲示物】

(3) 班別活動での取り組み

① 班編制について

下記のようなルールに従って、生徒たち自身に考えさせながら班編制を行わせた。

ディズニーランドの班編制については、体育館に学年の生徒を全員集めて、生徒自身に自由に編制を行わせた。事前に総務会や学級で仲間はずれが出ないように話し合っていたこともあって、欠席しがちな生徒を含めて順調に編制を行うことができた。

都内分散学習の班編制については、学級の生活班を基に、下記の係には誰が適任かを考慮しながら班編制を行った。班長には条件となっている総務委員や、主に生活班の班長を務めている者などリーダーシップのある生徒になった。



【ディズニーランドの班編制の様子】



【ディズニーランドでの計画作りの様子】

班編制の条件

- 東京ディズニーランド
 - ・ クラスの枠をはずし、3名以上の班を編制する。
 - ※ 男女別でも、男女混合でも良い。つまり自由！！
 - ※ パーク内で過ごすにあたり、趣味・趣向が似ている友達と組むとよい。
- 都内分散学習
 - ・ クラス内で6班編成
 - ※ 男女混合で6～7人で1班

都内分散学習の班における係について

班長・・・班のまとめ役。集合整列・点呼をする。本部との連絡を行う。

副班長・・・班長の補佐役。体調不良の生徒の補助・時間の管理。

美化係・・・バス・宿舎内の美化活動の中心的役割を果たす。

学習係・・・分散学習のまとめを作成するに当たってカメラの管理と撮影。

※ 1班の班長は男子総務。2班の班長は女子総務とする。

※ 班長が男子の場合、副班長は女子。班長が女子の場合は、副班長は男子。

※ 6人の班・・・学習係・美化係を2人ずつとする。

※ 7人の班・・・学習係を3名、美化係を2人とする。

② 都内分散学習の計画作り

次頁のプリントを生徒に配付し，二日目の分散活動の行き先や活動時間などを，ガイドブックを参考に自分たちで話し合って考えさせた。ホテルから，以下の方面にバスを配車し，降車ポイントからは自分たちで公共交通機関を使用して移動することとした。

- A 渋谷・原宿方面
- B 浅草・スカイツリー方面
- C 上野方面
- D お台場方面

話し合いの様子は，班長が司会役となつて，班員の行き先の様々な希望を調整していた。特に難しかったのは移動時間である。生徒たちは東京エリアでの所要時間について全く予想が付かず，ガイドブックが頼りであった。担任も生徒たちの話し合いに助言を行ったが，今回，非常に有効だったのは，旅行社の担当者の方に計画作りに入っ



【計画作りの様子1】

ていただいてアドバイスもらったことである。そのため無理な計画をしている班や，移動時間が厳しい班についても旅行社のアドバイスで自分たちの計画を考え直すことができた。

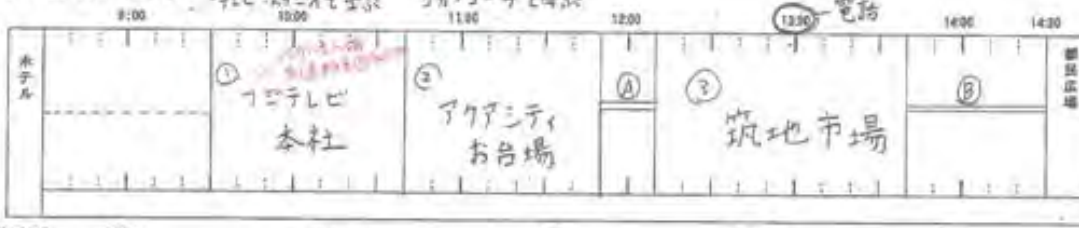


【計画作りの様子2】

修学旅行 分散学習計画表【済書用】

1組 5班 班長 学習係 学習係 保健係
 8人 副班長 学習係 学習係 保健係

＜行動計画＞



【移動手段】 徒歩 ————— バス ————— 電車 ————— その他 —————

Ⅰ《入場料など》	①	0	円	②	0	円	③	0	円
	④		円	⑤		円	⑥		円

Ⅱ《交通費》	A	500	円	B	267	円	C		円	D		円
--------	---	-----	---	---	-----	---	---	--	---	---	--	---

Ⅲ《食代》	予定場所:	筑地(南ばら亭)	予定金額:	1500	円	Ⅰ+Ⅱ+Ⅲ	2267	円
-------	-------	----------	-------	------	---	-------	------	---

＜詳しい交通経路＞

A	台場(11:49) → 115 → 19番(12:01) → 築地(12:07)	C	
B	築地(13:40) → 都庁前(14:??) → 都民広場(14:30)	D	

【分散学習計画表】…教師や旅行社の方のアドバイスが書き込まれている。

組	班	人数	班長名	エリア1	エリア2	9:30~	9:45~	10:00~	10:15~	10:30~	10:45~	11:00~	11:15~	11:30~	11:45~	12:00~	12:15~	12:30~	12:45~	13:00~	13:15~	13:30~	13:45~
1	1	7		お台場	渋谷原宿			お台場								原宿							
1	2	8		スカイツリー	お台場	スカイツリー								お台場									
1	3	8		お台場	浅草	お台場						浅草											
1	4	7		スカイツリー	お台場	スカイツリー		浅草								お台場							
1	5	8		お台場	築地	お台場								築地									

【3年1組の班別タイムテーブル表】

分散学習の計画と事後学習について

1 各班に配られるもの

配付物	枚数	備考
①分散学習・事後学習について	1枚	今後の流れの説明です。
②分散活動希望地記入表	1枚	希望を記入後、担任の先生に提出
③計画表清書用(B4片面印刷)	1枚	下書きでチェック後、清書して提出
④下書き用(B4両面印刷)	1枚	チェックするための下書き用。
⑤記入例(A4片面印刷)	1枚	計画表記入例です。これを見本に書く!!
⑥分散活動班名簿	2枚	名前を入れて担任の先生に2枚とも提出
⑦東京分散用資料		担任の先生の指示にしたがって使う。

→ ①～⑥は班長の総合ファイルに保管、⑦は担任の先生の指示で

2 分散学習の計画

～分散学習の流れ～

① 班決め → ② 班で出発地点を決める → ③ 分散計画表作成
→ ④ JTBにチェックしてもらって、再確認 → ⑤ 分散地事前調べ

① 4 / 24 (木) or 28 (月) → 班決め・スタート地点希望検討など・・・

② 5 / 1 (木) → スタート地点希望表を担任に提出!! (5/1中に提出!!)

③ 5 / 7 (水) スタート地点決定!! 班員で協力して分散地を検討する。

④ 5 / 14日 (水) ・ 23 (金) ・ 28日 (水)

→ 分散学習行動計画表作成 → 28日完成!!

⑤ 6 / 4 (水) 5限 or 6 / 9 (月) 1限 → 再検討・最終確認!!

※やることがなくなったら、事後学習のB紙のレイアウトを考える。

3 計画表作成についての注意点

(1) 分散の範囲は東京都内の範囲で計画する。

(2) 移動は「徒歩」と「地下鉄・JR」

(3) 昼食後に、担任の携帯に電話を入れる。計画表に「連」マークを書く。

※ 昼食は12:00～13:00の間に食べる

(4) 見本通りに記入させる。

4 事後学習について

(1) 用紙・・・一人B5用紙1枚を担当して、班でB紙1枚にレイアウトして貼る。

(2) 作成日・・・7 / 2 (水) ・ 7 / 3 (木) ・ 7 / 7 (月) → 4時間で
完成!!

(3) 7 / 9 (水) 上級学校説明会で掲示予定。

5 当日の取り組み

(1) 出発式（前日）

前日に行った修学旅行事前指導の後で、総務会による出発式を行った。その挨拶では「中学校生活で一番大きな行事です。今までで一番良い思い出にできるよう、みんなで仲良く、楽しく、スローガンの『喜笑天結～輝く笑顔で一步前進～』を胸に、最高の修学旅行にしましょう。」という言葉でみんなを盛り上げて始まった。



【出発式の様子】

また、三日間お世話になる添乗員さんも総務委員から一人ずつ紹介し、挨拶をしてもらった。

(2) ディズニーランド（一日目）



【生徒Aの作文】

ディズニーランドでは計画表を何度も見返していたので、ビリビリに破れてしまいました！時間にも追われていたのでとても走りました。とにかく疲れた！そして楽しかった。

【ディズニーランドの様子】

ディズニーランドでは、学級の枠を超えて学年の中で自由に班編制を行ったので、仲の良い友人同士で楽しみながら、ねらいとする「互いに認め合い、協力する」行動ができた。また、事前に班で計画した順序でアトラクションを巡りながら、どの班も時間を守って行動できた。

(3) 都内分散学習（二日目）

すべての班が事前に作成した計画書に従って行動していた。何度も話し合って作成したタイムテーブルであったので、ほとんどの班が予定通り訪問先に行くことができたが、名古屋より複雑な交通網をもつ東京だけあって、時間の読み間違いで計画通りにいかない班もあった。

班の係活動では、班長が計画書を見ながら班員に早めの行動を呼び掛けるなどして行動をリードすることができた。また、学習係はまとめ作成のためのメモを取ったり、写真を撮ったりして責任を果たそうと努力していた。学習係ではない生徒も事前に見学先・訪問先の事前学習を行っており(下の資料)、当日の記録もしっかり取っていた。



【浅草寺見学の様子】



【NHKスタジオパーク訪問の様子】

(4) 伊豆高原の体験活動 (三日目)

三日目は、伊豆高原において下記の体験活動を行った。生徒の趣味・趣向に合わせて、事前に選択させたが、体験によってかかる費用も異なるので、保護者と相談の上で選ばせた。

「日ごろ体験できないことを経験することで、知識・見聞を深めさせる。」という修学旅行のねらいに基づいて、生徒たちは事前に、予習したり、実行委員会作成の掲示物を見たりして、どんな活動なのかを学習していた。

当日は、インストラクターの方から丁寧に説明していただいたこともあり、どの生徒も理解が早く、充実した活動を体験できた。

【生徒Bの作文】

都内分散では、予定より早く着いたので、明治神宮に長くいることができた。竹下通りは想像していたよりも古い感じだと思った。お土産を買えなかったのは心残りだが、自分の中では楽しかったのでよかった。

【生徒Cの作文】

今日は明治神宮と竹下通りに行きました。思ったより早く到着しましたが、竹下通りで時間を使ってしまい、しかも地下鉄とJRを乗り間違えて、結局浅草へは行けませんでした。男女で協力して仲良く活動できました。

修学旅行 分散学習について

訪問・見学施設名 1 雷門

滞在時間 10:20 ~ 12:10

学習テーマ

事前学習と当日の記録(メモ)

【事前学習】

天慶5年(942)平公房により、創建された。
 風神・雷神…伊弉諾守護のため、風水崇または火災(左側)からの除災が目的。
 高さ3.9m、直径3.3m、重さ900kg。
 慶応元年(1865)12/12 田原町大火で焼上
 => 昭和35年(1960)再建(95年ぶり)

【当日の記録(メモ)】

雷門以外にもろつ(ふくめ)はど門もありました。雷門のしき地中さ商店街のようた
 小さなお店がいくつもならんでいた。
 京都の五十の塔のようなものがあった。



【事前学習と当日の記録(メモ)】



【ドルフィンタッチ体験の様子】

【生徒Dの作文】

私の体験はドルフィンタッチでした。スタッフの方は美人さんばかりで、イルカたちもとってもかわいかったです。いろいろな技を見せてくれました。意外にも肌がつるつるでした。イルカは2時間に1度肌が変わるそうです。(だからあんなに美肌なのかな…)びっくりしました。イルカたちとたくさんふれあえて楽しかったです。



【吹きガラス体験の様子】

【生徒Eの作文】

サンドブラストと吹きガラスをしました。サンドブラストはビニールテープが全体に貼られたガラスのコップに絵を写し、カッターで切り抜きました。砂は職人さんが付けてくれていました(自分で付けられるのかなと思ってたのですが)。その後、吹きガラスで、なかなか最初は上手く息が入らず、 tong でコップの口を開くのも難しく少しゆがんでしまいましたが、楽しかったです。

伊豆高原の体験活動

番号	体験名	金額	内容
1	遊漁船での船釣り体験	4200 円	船釣り体験
2	スノーケリングと海の生物講習	4644 円	スノーケリング体験
3	陶芸体験	2050 円	陶芸(てびねり)体験
4	シルバーアクセサリ体験	3500 円	ペンダントトップ作成
5	サーフィン体験	5400 円	海岸でサーフィン体験
6	ドルフィンタッチ体験	2500 円	イルカと触れ合う体験
7	スカイアドベンチャー体験	2200 円	地上 6 m でさまざまなエレメント(遊び)を体験
8	オルゴール作り	2260 円	オルゴール作りとオルゴールの歴史を知る
9	サンドブラスト	2592 円	サンドブラスト&吹きガラス体験

6 事後の取り組み



【都内分散学習をまとめている様子】

都内分散学習で学んだ成果を、1枚の模造紙にまとめて掲示物にした。それを7月の上級学校説明会（保護者も参加する場）で掲示し、修学旅行の成果として見ていただいた。

まとめの制作には、4時間かけた。それぞれの調べてきたこと、学んだことを班の中で話し合っ、どの内容を採用するか、どのくらいの分量を書くか、重複している内容はないかなど、班長を中心に自分たちで考えて判断し、班員の情報を仕分けすることができた。



【都内分散学習をまとめた掲示物】

Ⅲ おわりに

修学旅行を終えて、生徒たちの姿勢が変わってきたように感じる。集会等、集合する際には総務委員が呼び掛けて、整列や点呼の指示を的確にできるようになった。また、班長を経験した生徒も早く整列するように声を掛けるなど、リーダーをフォローできるサブリーダーとして成長したと思う。

また、1年生の時から総合学習の中で、班別活動においては仲間と協力することを、市



【総務委員が司会をする様子】

内分散活動においては仲間と協力しながら公共のルールやマナーを守って行動することを、上級学校訪問では社会性を学んできた。そして修学旅行の都内分散学習では、慣れない土地でも、事前に自分たちで調べ、話し合った行動計画に沿って活動することができた。生徒たちは、1～2年生の経験と合わせて、自分たちで考えて行動することに自信を深めたことと思う。